朝日小学校・只見中学校・地域住民が連携

地域合同防災訓練を初開催

7月8日、朝日地区内の「朝日小学校、只見中学校、黒谷地区（町・蓮の原）、行政関係者」などが連携し、地域合同防災訓練が行われ、総勢約２２０名が参加しました。

主催は朝日小学校と只見中学校。合同訓練を通して、自分の命を守る「自助」、互いに助け合う「共助」・行政による救助・支援「公助」を理解し、防災意識を高めること、そして平成23年7月に起きた「新潟・福島豪雨災害」の歴史と教訓を後世に語り継ぐ人材育成を目的とし、朝日小学校などが計画しました。

▲朝日小学校へ避難する黒谷地区の小・中学生と住民の皆さん

避難訓練は、大雨による水害を想定し行われました。当日朝7時20分に防災行政無線で水害発生による避難勧告が放送され、黒谷地区の住民は朝日振興センターに避難しました。その後、川の増水のため朝日振興センターから朝日小学校へ避難するよう指示があり、避難者は列になり朝日小学校の校庭へ避難しました。

▲1次避難所から2次避難所へ避難する際、小学校高学年は低学年の手を引いて移動しました

朝日小学校では、大雨の影響により２次避難所の只見中学校体育館に避難する放送が流れ、小学生・先生方と地域住民は速やかに移動しました。移動の際には、中学生が通路に並び、避難場所に誘導していました。

２次避難所の只見中学校体育館では、避難生活を想定した訓練がされました。まず体育館に入ると、中学生が避難者の受付を行い、胸に名前を記入したシールを貼り、全員が避難したか確認を行いました。

その後、体育館や教室など４箇所に分かれ体験活動が行われました。１つ目は、「平成23年7月の新潟・福島豪雨災害」について、防災士の渡部仁一さんによる当時の状況や防災についての説明。２つ目は、只見町赤十字奉仕団の皆さんと一緒に炊き出しの体験で、おにぎり作り。３つ目は、役場町民生活課による、避難生活で使用する「簡易トイレ・テント・食料品」など防災グッズについての説明・体験。４つ目は、消防署による「三角巾や包帯の使い方」など救急処置の方法の説明・体験があり、小学生や中学生、そして住民の方はそれぞれ分かれて体験しました。

最後の全体会で、朝日小学校２年生の伊藤恵衣さんは「家族と一緒にいないときは、地域の人と避難します」と話し、只見中学校３年生の渡部美依さんは「今回の訓練を活かし、有事の際は、落ち着いて対応したい」と訓練の感想を話しました。

今回の訓練は、参加者の皆さんの防災意識を高めたことと思います。有事の際は、まず自分の命を守ることを最優先に、常日頃からの準備が大切と改めて感じました。皆さんもいつ起こるか分からない災害に備えて、避難場所の確認など準備をお願いします。

▲感想を述べる小・中学生と小沼昇さん6名

▲段ボール製の組立トイレ

▲防災士の渡部仁一さんによる豪雨災害の説明

▲包帯の使い方を学ぶ小学生

「八十里越馬子唄」を復元
完成お披露目会を開催

7月3日、町下町民体育館において、「八十里越馬子唄」のお披露目会が行われ約100名が参加しました。

八十里越馬子唄とは、越後吉ヶ平の馬子（荷物を運ぶ馬を引く人）が八十里峠を越える時にうたっていた唄で、この唄を後世に伝えていく目的で、町教育委員会から町文化協会へ復元を委託しました。

当日会場では、町民謡会の皆さんによる尺八・唄の生演奏で、馬子唄が披露され、梁取地区の三宅友也さんによるカラオケ指導も行われました。

参加された方からは「素晴らしい」「また聴きたい」などの声が聞かれ、閉会後にはCD販売も行われました。

▲八十里越馬子唄を披露する町民謡会の皆さん

只見高校生が日本海から太平洋を横断
第6回「R289フルコース踏破」

新潟市からいわき市までの国道289号を自転車で走破する事業「R289フルコース踏破」が、7月30～31日にかけて行われ、只見高校1、2年生19名が参加し、約10kmずつのタスキリレー方式でゴールを目指しました。この事業はR289フルコース踏破実行委員会の主催で、国道289号全線早期開通と、八十里越の周辺環境の保全・活用などを目的に開催され、今年で6回目となります。

初日は新潟県庁をスタートし、八十里越工事区間は徒歩や車両で通行し、明和振興センターに到着。2日目は、同センターから南会津町、白河市を通り、夕方にいわきの勿来の関に無事到着し、沿道からは温かい声援が送られました。只見高校生よるPR効果で、一日も早く全線開通となることを願います。

▲新潟県庁スタートの様子

産学官連携による商品開発・改善
ものづくりセミナーを開催

7月25日、福島県などが主催する「産学官連携ものづくりセミナー」が只見町商工会で行われ、約20名が参加しました。

講師に、東北大学大学院工学研究科の堀切川一男教授を迎え、地域産学官連携「福島堀切川モデル」について講演されました。福島堀切川モデルとは、福島の復興と共に、企業の新製品開発や事業化の成果を生み出すことを目的に、民間企業と大学の専門家、そして地方公共団体などがチームとなって連携するモデルで、企業に御用聞に伺い、悩みや失敗談から専門家の意見を取り入れ、そこから製品化に結び付けることで、実際の事例をふまえ説明して頂きました。

堀切川教授は「製品化の目標はあまり高い設定はしないこと」「商品のネーミングにこだわること」などアドバイスを送っていました。

▲講演会前に会津工場を視察した堀切川教授

「只見の産業を学ぼう」
会津工場・会津只見考古館を見学

7月26日、町教育委員会の成人教育事業で、町の今と昔の産業・仕事を学ぶ為に会津工場と考古館の見学を行いました。参加者は夏休みこども教室児童を含む35名で只見学を活用しました。

初めに、現代の産業を学ぶ為、会津工場を訪問しました。会津工場では、世界で唯一「Hプロセス工法」という鋳造法を用い、製品を社内一貫管理する高い技術をもっており、工場見学を通して社員の方からその説明を聞きました。小学生から大人まで熱心に聞き入っていました。

また、考古館では、麻から布にする加工や施設内の展示品、そして遺跡等の見学を通して昔の産業や仕事について学びました。

参加者からは「良い勉強になった」という声が聞こえてきました。

▲会津工場で工場見学する小学生の皆さん

素早い動作と正確な連携操作を披露

平成28年度福島県消防操法競技南会津地方大会

平成28年度福島県消防操法南会津地方大会が、7月3日に南会津町だいくらスキー場駐車場で行われました。

この大会は隔年で行われ、只見町・南会津町・下郷町・檜枝岐村の4町村の消防団員が、消防ポンプなどの機械器具を使用し消火活動の基本となる「消防操法」の技術とタイムを競い合います。只見町の選手は、5月12日の結団式から約40日間の練習を重ねてきました。

大会当日は、時折雨が降る天候の中で行われ、持ち運び可能なポンプを使用する「小型ポンプの部」に4チーム、消防車のポンプで行う「ポンプ車の部」に3チームが出場しました。

▲素早い動作と正確な連携を披露したポンプ車操法

競技本番で只見町チームは、俊敏な動きと絶妙なタイミングでポンプ操作などを行い、最短時間で火点への放水を完了しました。ベストを尽くし操法をやり遂げた出場選手に、目黒消防団長や目黒町長、応援団から大きな拍手が送られました。

小型ポンプ操法、ポンプ車操法の成績と出場された選手は次のとおりです。

▼小型ポンプ操法の部・「第4位」

指揮者	梁取麻緒
1番員	菅家健太
2番員	皆川龍
3番員	酒井俊夫
補充員	八久保高志
補欠	皆川範仁

▼ポンプ車操法の部・「第3位」

指揮者	佐藤隆一
1番員	堀金瞬
2番員	加藤健太
3番員	目黒秀幸
4番員	五十嵐順
補充員	三瓶宏勝
補欠	五十嵐友人

▲各選手40日間の訓練の成果を十分に発揮し、只見町の代表としてベストを尽くしました

町内全ての小・中学校が受賞

県教育委員会から良い歯の学校表彰

6月27日、町内4校の小・中学校が、平成28年度福島県学校歯科保健優良表彰の報告で目黒町長を訪問されました。

この表彰は福島県教育委員会等が主催で、学校の保健歯科活動を通し、児童・生徒の歯が健康に守られ、その取組みが認められた学校が表彰されます。今年は、只見小学校と明和小学校が「優秀賞」、朝日小学校と只見中学校が「奨励賞」で、町内全ての小・中学校が2年連続で受賞されました。

目黒町長は「町内全ての小・中学校が、2年連続での受賞は大変素晴らしいこと。学校関係者や保護者の日頃の努力が、子ども達の歯の健康に繋がっているので、今後も宜しくお願いします」と挨拶しました。

▲受賞報告に来庁された校長先生方。
受賞おめでとうございます!

国道252号六十里越雪わり街道
只見町と魚沼市で清掃ボランティア

只見町と魚沼市の「国道252号六十里越雪割り街道を愛する会」主催の清掃ボランティアが7月12日、只見町宮渕から魚沼市大白川の間で行われ、両市町合わせ約90名が参加しました。

清掃は只見町と魚沼市の両側から行われ、道路沿いの空缶やタバコの吸い殻などを回収しました。

清掃終了後、アイヨシの滝で只見町と魚沼市の参加者が合流し交流会を行いました。交流会で目黒長一郎会長が「今年はゴミの量が減り通行者のマナーが良くなったと感じた。両市町で交流しながら早期再開通の要望に取組んでいく」と挨拶し、魚沼市の皆さんと連携を確認されていました。その後お茶で乾杯し、冷汁とおにぎりを食べながら参加者の懇親を深めていました。

▲R252の景観を守る愛する会とボランティアの皆さん

只見の郷土料理を次世代へ繋ぐ
人材育成ダイヤモンドプラン事業 第8期生

人材育成ダイヤモンドプラン事業「第8期生」の開講式が6月30日、只見振興センターで行われました。

第8期生12名は「チャレンジ！ふるさとクッキング」をテーマに、只見の郷土料理の作り方や歴史などを2年間学びます。

開講式で角田行雄教育委員長は「只見は農山村文化で、食生活に昔からの知恵や工夫がある。受講生は味と技を学び、次世代に伝えて欲しい」と挨拶しました。また受講生からは「母の郷土料理の味を覚えたい」「農家民泊で子どもに教えたい」「郷土料理を仕事にする為に学びたい」など意気込みを話してくれました。今年度の講座は全8回予定され、基本などを学んでいきます。

▲開講式後には1回目の講座が行われました

只見振興センター新築事業
「安全祈願祭」開催される

6月29日、只見総合開発センター跡地で、只見振興センター新築工事の安全祈願祭が行われました。

只見総合開発センターは耐震性能に問題があり、既に取り壊されましたが、地域住民の要望を反映した設計がまとまり、今回只見振興センターを新築することになりました。

新築工事の安全祈願祭で、目黒町長は「地域住民の意見を含め計画した只見振興センターが、1日も早い供用開始となることを願っています」と挨拶しました。竣工は来年の3月末を予定しています。

▲地鎮（じちん）で「鍬入（くわいれ）」をする目黒町長

ロボットが田んぼを除草
「日産自動車×会津大学」只見で試験運転

7月20日、大倉地区にあるさんべ農園の田んぼ（有機栽培）で、日産自動車と会津大学が共同開発している除草ロボット「アイガモロボット」の試験運転が行われました。

これは、日産自動車の電気自動車の充電機能及びGPS機能（衛星位置情報）による自動運転技術を、会津大学の開発チームが「アイガモロボット」に盛り込み、自動で田んぼを除草する技術で、農作業の省力化を図ることが狙い。今回は試作段階の為、大学生がロボットをコントローラーで操作し、動きを確認しました。

会津大学の藤井准教授は「将来的に、農業用電気自動車からロボットが自動的に田んぼに入り除草するようにしたい」と話され、同大学の中村准教授は「この技術により、農業にも開発にも興味を持つ人が増えれば」と思いを話されました。

▲ロボットの動きを確認する農業者と開発チーム

只見町新商品開発事業

只見町「只者じゃない」ブランド始動

只見町「只者じゃない」ブランド推進委員会が主催する新ブランド「只者じゃない」産品が、ふるさと交流都市柏市を中心に販売開始となりました。

この事業は、町内の事業者（製造者・販売者）、観光商工団体など9団体が参加し、3年前から只見らしい産品づくりの話し合いや、試作品のテスト販売などを行い、平成27年度に「委員会、ブランド基準、認証基準」を設置しました。

ブランドは、町内の誘客対策と観光産業の魅力向上を図る為、付加価値の高い産品づくりを目的とし、町の魅力と個性を伝え、安心安全をもった産品作りができるよう次の基準を設けています。

▲▶昨年度実施したテスト販売の様子

◆認証基準

①町内の事業所で製造・生産された商品であること。

②着色料・保存料・化学調味料が無添加であること。

③町内で収穫された原材料を最低1つ以上使用すること。

認証された商品については、ブランドシールやブランドパッケージを貼り販売することができる他、町主催のイベントの際には、「只者じゃない」ブランドとしてPR・推奨される等のメリットがあります。

現在認証されている商品は7品あり、8月以降町内各所でも購入できるよう準備しております。

また、推進委員会では新商品を募集しております。申請等の詳しい内容については、役場観光商工課までお問合せ下さい。

◆お問合せ先

役場観光商工課観光係

（☎0241-82-5240）

▲ブランドロゴマーク

地域住民による

明和地区空き家利活用懇談会を開催

7月7日、空き家となっている小林集落の古民家で、空き家利活用についての懇談会が行われました。

当日は、明和自治振興会、明和地区内在住女性、U・Iターン者、明和振興センター職員など総勢15名が参加し、古民家の囲炉裏を囲んで意見交換されました。

懇談会では、空き家対策の一つとして、空き家を売り・貸したい人と、買い・借りたい人とをマッチングする空き家情報登録制度「空き家バンク」についての話し合いがありました。只見町全体の空き家は約200軒ほどあり、その内明和地区に55軒あります。明和振興センターで実施した、地区内にある空き家所有者などを対象としたアンケート調査の報告では、売りたい・貸したい意思があり、空き家バンク登録に向けて前向きな回答が12件ありました。

▲様々な角度から空き家に対する意見交換がされました

その後、千葉県柏市からIターンで布沢に移住された明和自治振興会の今井博さんからは、空き家バンクの仕組みや空き家の利活用について具体的な説明があり、参加者からも「空き家でシェアハウスが良いのでは」「空き蔵を酒の保存場所で使えないか」など住居以外の活用意見や、「空き家バンクの情報は、空き家の状態によりランク付けしてみては」など空き家バンク利用者目線での意見が活発に出されました。

また、意見交換の中で問題点も見えてきました。「空き家に残された仏壇や家具などの問題」「修繕が必要な場合の費用負担の問題」「冬の除雪などの管理の問題」「集落に非協力的な方が移住する可能性がある問題」などがあげられました。

今回見えてきた問題は、明和地区だけではなく、町全体が抱える問題になります。空き家バンクが町の少子高齢化に対する打開策になるよう、考えていかなければなりません。

空き家バンクの制度化は、今年度中の活用開始を目標とし、さらに町全体で空き家の登録を目指します。

自然首都で農業を始めてみませんか

新規就農者を応援します！！

只見町では、新規就農者を積極的に支援しています。新規就農者が安心して農業の担い手になれるよう相談受付や助成制度を整えています。U・Iターン、未経験でもOK！ 是非お問合せ下さい。

1. トマトでの就農の流れ（相談～面接）

◆就農相談
只見町の雪深い気候などを踏まえ、只見町で就農したいという方は、まず下記お問い合わせ先までご連絡ください。

◆就農者面接
南郷トマトの生産組合やＪＡなどと面接を行い、受入が決定したら次のとおりとなります。
・南郷トマト生産組合で研修受入農家を選定します。
・住居は、町で空き家を探し斡旋します。
・冬期間の仕事についても、相談を受けます。

今年からIターンで小川地区に新規就農された村上ご夫妻。事業主として日々トマトづくりを頑張っています!

▲さんべ農園での研修で学んだノウハウを活かしおいしい南郷トマトを育てています

2. トマトでの就農の流れ（研修～就農）

◆1年目／農業研修
・研修期間は1年間（栽培期間は4月から10月頃まで）。組合から紹介された農家で南郷トマトづくりの研修を実施します。
・研修期間は研修費を助成します。
・研修期間中にトマト栽培用農地を斡旋します。

◆2年目／事業主として就農
1年間の研修でノウハウを学び、栽培用地や住居を確保して2年目は本格的に事業主としてトマト栽培が始まります。
・春にパイプハウスや潅水施設を設置。（助成制度有）
・その後は、仲間と相談しながら目標に向かって頑張ります！

3. 新規就農の助成制度

□パイプハウスや潅水設備などは、国・県の補助事業を活用しながら、ほぼ全額助成。
□苗・肥料などの資材について7割助成。
□借入れた農地代を5年間助成。
□青年就農給付金の給付（国制度）
□空き家（住居）の斡旋　　…などなど

※年齢や同居親族、導入作物など条件があります。詳しくは下記お問合せ先にご相談ください。

福島県南会津農林事務所では日帰り～1週間程度の農業体験プログラム「南会津ふるさとワークステイ事業」を実施しています。
只見町でも実施できますので、まずはちょっとやってみたいという方は、下記までお問い合わせください。

福島県南会津農林事務所企画部地域農林企画課
TEL：0241-62-5252　FAX：0241-62-5256
E-mail：kikaku.af05@pref.fukushima.lg.jp

お問合せ先／只見町役場　農林振興課　農政係　☎0241－82－5230